

親子が元気になる家庭教育支援

清須市家庭教育支援チーム「チーム MOMO」

《チーム MOMO の紹介》

平成20年度に、文部科学省からモデル事業の委託を受け、桃栄小学校を拠点とした家庭教育支援チーム「チーム MOMO」を結成する。メンバーは、愛知県子育てネットワークであり、主任児童委員・学校評議委員・スポーツ推進委員・保育サポーター・母子保健推進員等で活動を続ける。

〈ねらい〉

子育てや家庭教育の相談に応じる。親子での様々な取り組みや、研修会など学習の機会を提供することで、親子の学びや育ちを支援する。

〈あゆみ〉

平成20年・21年度	文部科学省委託事業
平成22年・23年度	愛知県教育委員会生涯学習課委託事業
平成24年度	自主的家庭教育支援活動を実施
平成25年度	「公民館を中心とした社会教育活性化支援プログラム」事業 文部科学省委託事業 “清須フェスタ” 実施
平成26年度～	清須市生涯学習課委託事業 “親子が元気になる家庭教育支援”

〈令和4年度活動内容〉

行事	ねらいと内容	地区
MOMO の部屋 (桃栄小学校視聴覚準備室)	保護者の相談に応じる。休み時間に、伝承あそび等を通して児童と交流をする。	桃栄小学校
小学校PTA総会時の支援	保護者の方にPTA総会及び学年(学級)懇談会をする間、児童を預かる。	新川小学校 他1校
ふれあいサロン	懇談会(7月・12月)の期間中、保護者が懇談をする間児童を預かる。保護者の方の相談と交流を図る。	桃栄小学校
「親の学び」家庭教育研修会	参加者同士意見交換等する中、自分の子育てを振り返り、親としてのあり方や子どもとの接し方等について考える。	星の宮小学校 他3校
入学説明会	新1年生の保護者に、家庭における心得について、お話しをする。	新川小学校 他2校
中学生と赤ちゃんのふれあい交流会	「いのちの大切さ」について、赤ちゃんやその保護者とふれあい交流する中で、体験を通して学ぶ機会を提供する。	新川中学校
読み聞かせ	読み聞かせを通して児童と交流する。	桃栄小学校
孫育てから地域の子育て支援へ	祖父母世代だからこそできる子育て支援について、子育て中の親との、よりよい関わり方を考える研修会を行う。	清須市全地区

※その他の活動

- ・桃栄小学校の行事に参加協力
- ・新川中学校の挨拶運動に参加

- 1 行事名 中学生と赤ちゃんのふれあい交流会
- 2 行事のねらい 中学生が、お母さん方や保健師さんからお話を聞き、また赤ちゃんのぬくもりや重みを直接肌で感じとることで、自らを振り返り「いのちの大切さ」を学びとる機会とする。
- 3 行事の概要
 - ◇場所・日時 新川ふれあい防災センター 和室 11月5日(土) 10時～11時30分
 - ◇参加者 清須市立新川中学校3年生7名
親子3組(乳幼児7ヶ月～9ヶ月) 母3名父3名
 - ◇講師 清須市保健師 渡部裕美子氏
清須市家庭教育支援チーム「チーム MOMO」
 - ◇内容 保健師さんのおはなし・お母さんへインタビュー
中学生とお母さんお父さんの交流・中学生と赤ちゃんの交流
- 4 ーお母さんのアンケートよりー (一部抜粋)

✿交流会についての感想

- ・自分の妊娠、出産を思い出すきっかけになりました。中学生の子と交流する機会はなかなかなく、お姉さんたちに抱っこしてもらったり、可愛がってもらえて息子も嬉しそうでした。今後も続けてもらいたいです。
- ・出産時や、子どもができたことが分かった時の気持ちを思い出すことが出来ました。とても良い経験ができました。
- ・すごく貴重な体験になりました。命の大切さや我が子が産まれた喜びを再確認し、子どもが大きくなった時にも、そのことを伝えたいと思いました。

ー中学生のアンケートよりー (一部抜粋)

✿参加の動機

- ・将来看護師になりたいと思っており、赤ちゃんとおふれあいたいと思ったから。
- ・高校の体験入学の日にかぶっていなかったこと、自分がちいさいころと来て下さる親御さんの話を結びつけて、いろいろ学びたいと思ったからです。
- ・赤ちゃんとおふれあう機会がなかなかないため。

✿「交流会」の感想

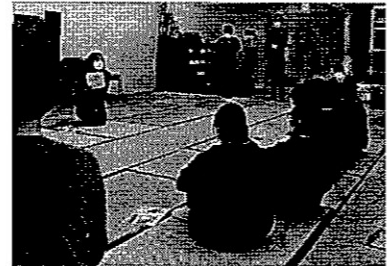
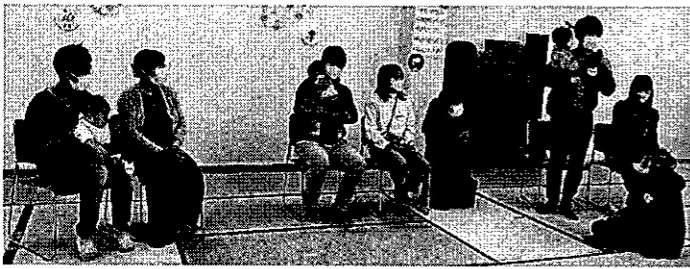
- ・お母さんやお父さんのお話を直接聞かせていただき、貴重な体験となりました。赤ちゃんとおふれあいをさせていただいた際、とても小さく気をつけないと何とかなってしまいそうなくらい柔らかくて、とてもかわいし、すぐに気分が変わったり、好奇心が強く目が離せないと感じました。
- ・赤ちゃんとのふれあいがとても楽しかったです。筆箱をくわえられて赤ちゃんは何でも口に含むので危険なものは置けないと思いました。話を聞くだけでも大変さや赤ちゃんの尊さが分かるのですが実際にふれあって感動しました。良い体験だと思うので続けていってほしいです。
- ・久しぶりに小さい子とおふれあい、赤ちゃんのにおい、ぬくもりが感じられてかわいかったです。保健師の方や、お母さんお父さんの話をきけて、命の大切さ、ありがたみなどを学ぶこ

とができました。

- ・赤ちゃんはものすごく好奇心があって可愛かったです。このような体験は初めてだったので緊張していました。でも話を聞いて興味がわいてきてためになりました。
- ・実際にお母さんやお父さんたちのお話が聞けて、貴重な経験になったなと思います。赤ちゃんと交流することができてとても楽しかったです。

☆「いのち」について、今感じていることはなんですか？

- ・命が生まれる確率はとても低いことが分かって、思っていたよりも奇跡的なことなのだと感じました。自分の命は家族が大切に育ててくれたものなので感謝してこれからも大事にしていきたいです。
- ・保健の授業では、ただ聞いているだけみたいになっていただけ、赤ちゃんを近距離で学んだことで良い経験ができて、これから命を大切にしていこうと思いました。
- ・いのちは一つしかなく、この世の中でとても大切だということをあらためて学ぶことができ、将来子供ができたときには、大切に守っていききたいと思いました。
- ・今、私たちが生きているのはすごく低い確率の上で成り立っていると改めて気づき、命の大切さを実感しました。「いのち」があるのは、すごいことだと改めて気付けたので、命を大切に、両親に感謝して生活しようと思います。



5 まとめ

事前打ち合わせの段階から自主的に役割分担を話し合うなど、真面目に取り組む姿勢が印象的でした。

保健師さんは、「いのちの奇跡」や「心と身体の健康」「自己肯定感」などについてお話しされ、生徒さんたちは静かに耳を傾けながら、その思いもしっかりと受け止めた様子でした。

お母さんやお父さんへのインタビューでは、命を授かった時の喜びや不安、また出産後の育児の大変さなどを率直に話してくださるとともに、大切な我が子への思いをお聞きすることが出来ました。

聴診器で聴いた「心音」は、正に「いのちの音」。そして赤ちゃんの抱っこ体験で感じたぬくもりや重みは、生徒さんたちにとって「いのちの大切さ」を実感する機会に繋がったように感じました。

振り返りシートには、自分を育ててくれた両親への感謝の言葉とともに、「自分を大切にすることの大切さに気づいたことなどが多く記されていました。

私たちチーム MOMO は、生徒さんたちに、このような体験を通して、今後も多くのことを学んでいただけるよう活動を続けていきたいと思っています。



- 1 行事名 子育て世代のわくわくワーク
- 2 行事のねらい 安心して子育てするには、みんなで一緒に考えていく。
- 3 行事の概要



- ◇日時・場所 6月4日(土) 10時～11時30分 清洲総合福祉センター(第2, 3会議室)
- ◇参加者 親子3組(大人4名 子ども7名)
- ◇講師 清須市家庭教育支援チーム「チーム MOMO」
∴託児スタッフ2名
- ◇内容 わくわくゲーム・おはなしタイム

4 おはなしタイム

☆子育てで大切にしていること

- ・ゆとり ・感情的に怒らないようにする ・子どもの目を見て話す ・スキンシップ
- ・互いの表情を分かるように ・元気にあいさつ ・笑わせる ・いってきます。おかえり。
- ・楽しく元気にいってきます ・自分でやらせる ・ことばで説明させる ・話を聞く
- ・ダメなことをただダメだと言わず、きちんと説明する。
- ・生活習慣(食事 睡眠) ・のびのび

☆地域の人とのかかわりかた

- ・あいさつ ・顔を知っている大人 ・それとない見守り ・あたたかい視線 ・長くない声かけ
- ・育児アドバイスは不要です… ・キケンなことしていること注意してほしい

5 参加者の振り返り

☆交流会についての感想をお聞かせください

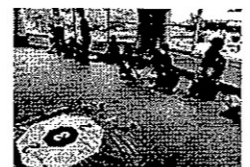
- ・よその家庭での悩み、気になっている事など聞けて参考になりました。周りに子育て世代を見守りたいと思って下さる方がいると感じる機会になりました。
- ・他の親子様と関わる機会がほとんど無いので、良い体験が出来ました。
- ・今日は楽しい時間をありがとうございました。幅広い年齢でも楽しめる内容、子供も大人も自由に過ごせる心遣いを感じて、過ごしやすくあっと間の1時間半でした。
- ・少人数でしたが、それぞれの子育てに大切にしていることなどを聞くことができ良かった。
普段の生活にも生かしていきたい。たくさんの MOMO の方たちに子どもをみて頂きゆっくり話せました。ありがとうございます。

6 まとめ

当日は、3組の参加で行いました。

「ボールゲーム」では、2才から小学校5年生の子どもさんまで、親子一緒にゲームをして、家族で、また参加者同士が楽しく交流していただけたと思いました。「おはなしタイム」の時には、みなさん方の子育てに対する考え方や思いを伺うことができました。参加者からいただいた「声」を、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

参加者の募集について、当日までに7組のキャンセルがありました。子どもの習い事や、行事などによる理由から設定日の難しさを感じました。



- 1 行事名 地域の子育て・孫育て応援講座 ～「想像力」について考えてみる～
- 2 行事のねらい 孫育て世代だからこそ出来る子育て支援や、子育て世代への寄り添い方について、ワークを通して学び、「気づき」を得る。
- 3 行事の概要
 - ◇場所・日時 清洲市民センター 集会室 10月5日(水) 10時～11時30分
 - ◇参加者 祖父母世代(21名)
 - ◇講師 清須市家庭教育支援チーム「チームMOMO」
 - ◇内容 ニチレクボールで楽しく交流しよう！
「想像力」について考えるワークショップ
- 4 「地域の子育て・孫育て応援講座」内容
 - ◇アイスブレイキング(ネームサークル)
 - ◇グループワーク
 - ◆ワーク1 子どもの「心のつぶやき」を想像する。
 - ◆ワーク2 子どもにかけてあげたい言葉を考える。
- 5 子どもの写真から「心のつぶやき」を想像する(一部抜粋)。ul style="list-style-type: none;">- ・ママに叱られちゃった。
- ・お母さんとはぐれた。
- ・ママ早くお迎えに来てくれないかな。
- ・お母さん早く帰ってこないかな。
- ・私悪い子かな。
- ・ママ私のこと嫌いなのかな。
- ・今日学校行きたくないな。
- ・お母さんの病気治るのかな？死んじゃうのかな？
- ・学校でいじめにあって悲しい。
- ・お姉ちゃんはいいなあ。
- ・もっと遊びたかったのに。
- ・おなかすいたー。
- ・お菓子かってほしいな。
- 6 「振り返りシート」より(一部抜粋)
 - ・みなさんと楽しくお話させていただきました。言葉一つで子どもの笑顔が見られるかどうかというくらい言葉選びは大事なんだと思いました。穏やかな気持ちで子どもたちを見守りたいです。良い時間をありがとうございました。
 - ・ニチレクボール楽しかったです。写真を見て…では、頭の中の視野を広げて想像することが大事だと思いました。気づきをありがとうございます。いつも楽しくためになる企画をありがとうございます。
 - ・地域で孫世代の関わりで日々学んでいきたいと思っています。この講座を参考にしていきたい。
 - ・自分自身で気が付かない事を皆さんの言葉を借りて認識することが出来ました。もっと子ど

もに、孫に寄り添いたいと思います。

- ・「大丈夫だよ」の言葉は子どもだけでなく、子育て中のママにもとっても大切な言葉だと思います。なかなか声かけすら難しい世の中になってきましたが、せめて自分のまわりにいる人だけでも、あたたかい目で見守りたいと思います。
- ・1枚の写真を見るだけでも、人それぞれいろいろな想像をして意見が出てくるので、とても参考になりました。自分の感情を抑えて人に話しかける「ことば」の大切さを痛感しました。人を思いやることを大事にしていきたいと思いました。
- ・毎回、楽しい企画を考えて下さりありがとうございます。近所には子どもは少なく、なかなか声を掛ける機会もないですが、最近のニュースなどで虐待される子どもが多く心が痛いです。地域でいつでも声を掛けていけるよう、つながりも大切にしていきたいと思いました。
- ・地域で子育てをしていこうとの思いがあふれた講座でした。大人になると想像力が乏しくなるのを実感しました。1枚の写真から自分の想像だけでなく、他の方の意見も聞けたので参考になりました。現役の子育てママの意見も参考になりました。大変勉強になりました。ニチレクボールも楽しかったです。

〈講座の様子〉



7 まとめ

今回の講座は、コロナ感染対策に十分配慮をし、参加者のご協力を得て行いました。

会場では、みなさんが会話を控えながらも、あちらこちらでのマスク越しの笑顔や会釈で和やかな様子に思いました。

今回のワークは、一枚の絵を見て「ある子ども」のつぶやきを想像していただきました。各自思い思いのつぶやきで、広範囲な想像の内容でした。特にお母さんへの思いが多いことにも気づきました。

子どもにかけてあげたい言葉については、それぞれ発表していただき、「大丈夫だよ」「どうしたの?」「いつもがんばっているね」などたくさんの言葉が聞けました。

振り返りシートからも、知らない人が子どもさんに声をけるのは、むずかしい世の中だけど、いつでも声をかけられるように、見守っていきたいという言葉がたくさん頂きました。今年度も「ねらい」とする「地域の子育て支援」に一步近づけたと感じています。

次年度も引き続き、「地域で子育て応援講座」を開催し、祖父母世代と子育て世代と一緒に交流出来るような内容で、企画したいと考えています。